

令和5年度 学校関係者評価報告書

(大原簿記情報ビジネス医療福祉保育専門学校)

1. 実施日時

令和5年8月8日(火) 15時00分～16時00分

2. 場 所

大原学園高崎校 4階 IT LABO-A 教室

3. 学校関係者評価委員

白石葉子 様 (富士フィルムビジネスイノベーションジャパン株式会社群馬支社 支社長)

柳澤景子 様 (社会福祉法人岳雄会 幼保連携型認定こども園エドゥカーレ城之内 園長)

市川芳美 様 (近隣住民)

新井良平 様 (本校卒業生 富士フィルムビジネスイノベーションジャパン株式会社群馬支社)

畠山みなみ様 (本校卒業生 社会福祉法人光徳会 ひかりこども園)

(事務局)

古堀 照久 (大原学園高崎校 校長)

松山 賢志 (大原学園高崎校 教務次長)

棗 正志 (大原学園高崎校 教務課長)

松岡 佳吾 (大原学園高崎校 教務課長代理)

小金澤 聡大 (大原学園高崎校 教務課長補佐)

外山 和哉 (大原学園高崎校 総務課長)

4. 会 議 録

(1) 学校長挨拶

(2) 令和4年度各コース実績・カリキュラムに関する報告、自己点検・評価報告

新型コロナウイルスも少しずつ平常化した令和4年度は、概ね通常通りの受験・就職指導ができていた。その甲斐あって、令和4年度の大原学園全国専門課程の就職内定率や公務員採用率、資格取得率、卒業生・在校生満足度調査結果など、例年同様の良好な成果を収めることができた。また、高崎校においては、学園全体の成果に見劣りしない成績が出せており、各コースに応じた受験指導や専門的実践教育が図られ、安定した資格取得率・合格率を維持できていた。なお、退学者抑止に関して、保護者の思考が年々変化してきており、一部のクラスに課題が残っている。

令和4年度における大原学園高崎校の自己点検・評価については、コロナ禍前の状況に戻りつつ良好な結果であり、前年度同等以上の成績、評価を残すことができ、円滑な学校運営が行われていた。また、教育理念に基づいた運営方針を明確に定め、教育理念を達成するために目標達成プログラムの導入、事業計画の策定、各研修制度の実施を通じて有為な人材育成が行えていた。予算実績も規定通り適切に行えており、財務状況も安定していた。

令和5年度も引き続き、高成績を残すために教職員の資質向上、学生の学びの機会の提供や継続、即戦力としての人材育成、社会活動や地域貢献・ボランティア活動等の継続をはじめとして、退学者抑止のための取り組みなど各委員のご意見を参考にして適切な学校運営を行なっていくこととする。

(3) 学校関係者評価委員会からの提言

➤ 『女性が活躍できる環境また育成方法』について

《関連する項目》

3-9-4 授業評価を実施しているか、3-12-2 教員の資質向上への取り組みを行っているか

《現状・達成指標》

- ・外部者の意見を取り入れながら教育課程へ反映させている。令和4年度から学園全体で進級生と卒業生に向けて、満足度調査を開始した。結果は学園平均 81.2%に対して、高崎校は 86.0%が満足しているという結果となった。今後、更に満足度を向上させていきたいが、学生も約半分が女性ということもあり、女性目線も大変重要と考えている。高崎校では女性の一般職は活躍しているが、学校全体に影響力を及ぼせる女性管理職は現状不在となる。女性が活躍できる環境や育成方法を是非委員の方々からご助言を頂戴したい。

《学校関係者評価委員会からの提言》

- ・評価基準を明確にする必要がある。女性だからといって差をつけない、あくまでフラットに評価する。富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社でも、まだ社会に求められている管理職男女比率には至っていない。変に気を使い、よかれとして過去には女性のみ管理職を希望するかは聞かれていた。これでは逆にフラットな評価基準にならない。能力だけを見て評価することが女性の活躍を促すきっかけになると考える。男女関係なく一度やらせてみることも必要。(白石委員)
- ・現在は自営業なので、そこまで意識したことが無いが、以前保育士をしていて時は逆に男性がおらず、女性しかいない職場であり、それが当たり前になっていた。その為、男性、女性でわかるのではなく、その人を評価することが大事だと思う。(市川委員)

➤ 『就職率の向上の取組について』について

《関連する項目》

4-13-1 就職率の向上がはかれているか

《現状・達成指標》

- ・令和4年度も民間就職、医療機関、保育機関、公務員と順調に就職させることができた。その一環として学園本部が中心として就職サポートシステムを立ち上げ、学生と担任が同じシステムで入力・管理が出来ていることも大きい。また、在学中に限り学生へ office365 のアカウント付与し、チームスでタイムリーな連絡・相談も出来る状況が出来ている。卒業生の立場から過去と比較するとどう感じるかお教えいただきたい。

《学校関係者評価委員からの提言》

- ・私の時代は就職管理や報告も手書きのみだった。正直うらやましい。コロナ禍になって、一気にチームスなどオンライン面談のシステムが広がったが、コロナがなくとも今後もこのようなサポートシステムや office365 のアカウント付与を継続する環境が望ましいと思う。(新井委員)

➤ 『中途退学への対応』について

《関連する項目》

- 5-17-1 退学率の低減が図られているか、5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか、5-20-1 保護者等の連携体制を構築しているか

《現状・達成指標》

- ・経済的理由、精神疾患等で退学を余儀なくされる学生が増加している。退学の兆候が発見されて時点で本人そして保護者等の連絡までしている。ただ、保護者に連絡しても子供に全てを任せているなど、非協力的な家庭も増えている。上司・部署全体での情報共有を行い、全員で対応することが理想的だが、現状若手担任のスキルを上げ切れていないのが高崎校の課題となる。学校としての退学率目標は5%以内だが、今年度も達成出来るかちようど瀬戸際となっている。最終的に学校として退学者を出さないようにする為に、何をすればいいか、様々な視点でご助言いただきたい。

《学校関係者評価委員からの助言》

- ・保育園でも何かあったらすぐに連絡するようにしている。一例だが保護者も登園しない子供に悩んでおり、メンタルをやられている方もいる。今の保護者は電話をされるだけでもプレッシャーになるので、欠席時はタブレットでメール連絡をして、長期欠席の場合は電話をするのは週1回にするなどしている。(畠山委員)
- ・親子の関係が変わっており、ご意見がくると、自分たちだけで対応できるものが減ってきている。結果的に周りへの相談が増えている。現在は園長先生に相談してすすめるようにしている。(畠山委員)

5. 学校関係者評価委員会総括

これまでの就職先や資格習得率などの実績や多くの卒業生の活躍から、令和6年4月開校の高崎情報ITクリエイター専門学校の学生募集が順調と聞いている。高崎校開校以来、教職員が一丸となって学校運営・教育活動に取り組んだ結果だと思われる。コロナ禍でも大原ポータルなどのシステムやオンライン授業を活用しつつ、対面授業やコミュニケーションを重視した場を提供していることも一因だと感じた。学生や保護者の考え方の変化があることから、コミュニケーションの方法や利用も教職員側の変化と成長が必要であることが伺える。引き続き、人材育成を通じて地域貢献そして社会的役割が果たせるよう取り組んでもらいたい。

委員一同としては客観的な視点から様々な提言をして大原学園高崎校が成長し、更に社会全体から信頼を得られるように助言していきたいと考える。